

Hanamaru Monthly Newsletter

花まるたより

10
2022



サマースクールのより

- ｜ 高濱コラム
- ｜ 作文コンテスト
- ｜ レインボータイム
- ｜ 花まるリビング
- ｜ 職人の無人島レポート
- ｜ 卒業生物語
- ｜ おはなしのキッチン
- ｜ 平沼純の旅する詩書
- ｜ アノネ Lounge
- ｜ Rin コラム
- ｜ タカラモノはここに
- ｜ 花まるコラム
- ｜ 花まるファミリー

2022年10月



NEC・野村證券・リクルート・ヤフー・キヤノン・住友商事・経済産業省・積水ハウス…。この数年で講演を依頼された大企業や組織です。規模でいうと中小企業の学習塾に過ぎない花まるが求められるテーマは、家庭です。社会の大黒柱とも言える企業や組織で個々のメンバーの人生に焦点を当てると、比喻として私がよく使う「北半球Ⅱ仕事ワールド」では、昇進もし、成果もあげている方でも、「南半球Ⅱ家庭」については、夫婦間の信頼や子育ての方針など、悩みや不安も尽きないでしょう。家庭内で起こる問題の専門集団である私たちは、膨大な事例を宝物として、不安を払しょくする一助になるようお話ししています。

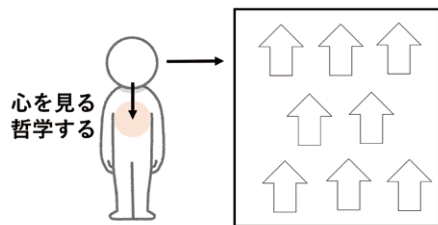
そんななか、ある業界最大手の会社から依頼されたテーマは、これまでと違いました。それは、「自分を見失わずにキャリアを選択できる」ための話をしてくれというものでした。「え？みんな見識あるエリートぞろいなのでは？」と聞くと、「評価基準の決められた場で最適解を選ぶことは得意」でも、自分だけの価値観や哲学と言われると自信がない、という人も多いというのです。これは、まさにこの一年くらい、私がどの世代向けの講演でも強調して話してきた

ぬくもり

テーマの一つです。図にすると、左側に自分がある。右側には社会の仕組み。仕組みには「年収・給与」「偏差値」「ブランド」「ランキング」など、外付けの数値化できる「価値基準」が示されている。それを遅くとも中学校の中間・期末試験あたりから、ずーっと提示され続け、上に行けば勝ち組、行けなければ負け組のように、洗脳され続けている。大事なのは、まず「自分の心を正しく見つめること」。そのうえで、「好き」と言い切れる心の震える選択として、右の仕組みのどれかを選ばよいのですが、まったくそうなっていない。偏差値が高いからその学校にする、というような選び方が典型です。心を見ない人生の選択は、たとえば40歳で転職はしたいけれど「やりたいことが見つからない」というような悲劇になります。

さて、大人たちこそが「自分の目ではなく外付けの評価基準」に取り込まれてしまっている世界で、大切な子どもたちが自分を見失わない人生にするために、できることは何でしょうか。いくつか道はあるのですが、一つが「アート教育」です。つい先日も「A teacher for KIDS」

を主宰するRinと外部の方と三人の対談があったのですが、まさにこのテーマを語る会になりました。Rinによると、学齢前の段階で「次は何をすればいいですか」と聞く子が多い。これは指示命令に従うことを是として育てられてきて、「自由に何を描いても作ってもいい」と言われると戸惑う状態になっているのだというのです。生き方を見失う大人の量産の元には、幼児期からのこの状況があったのです。そして、Rinの教室で、本当に自由に創っていいと知り、創作に没頭し、作った作品を親御さんに共感され認められることで、自分の想いを大切にすることができるようになるこのことでした。ここで大事なものは、「アートには正解がないからこそ良い」ということです。トップ経営者にですら、絵を描くことが広がっているというのも、うなずけ



新刊情報

『中学受験にも役立つ！はたらく細胞人体のしくみドリル』

講談社 編集，月刊少年シリウス編集部 監修，はたらく細胞製作委員会 監修，原田知幸 医療監修，花まる学習会 問題監修



『はたらく細胞』のキャラクターと一緒に楽しく学べる、中学受験にも役立つ理科ドリル。(学習指導要領対応)
小学校までに習うからの知識をわかりやすく解説＆131の問題に。キャライラストが入った特製赤シート付きで、重要単語の暗記もばっちり！
読むだけでからだについての知識を習得できると同時に、考える力も伸ばすことができます。

『シン・君主論 202X 年、リーダーのための教科書』

富山和彦，木村尚敬 著（日経 BP）



『シン・君主論 202X 年、リーダーのための教科書』は、これからのリーダーシップの在り方について書かれている。天災も疫病も戦争も同時に起こる不安の時代に、深く考えさせられ学べる本であり、教育・次世代育成にこそ、この視点を生かすべきではないだろうか。

高濱の本棚

ますね。現代の問題の核心を突くRinnの教育については、『ここを頭を同時に伸ばすAI時代の子育て』（実務教育出版）に、親のあるべき態度なども含めて、詳しく載っています。

さて、Rinnの指導現場を見ると、きょうだいのなかで言われ役（親からもっぱら叱られる側）であるような子とか、自己肯定感の低い子とかであっても、Rinnの認め、肯定・共感する独特の語り口のマジックで、徐々に「ここは大丈夫、という居場所感」を持ち始めるのがわかります。この構造は、子を伸ばす鉄則とも言える環境です。

4月から、吉祥寺で「花まるエレメンタリースクール」がスタートしました。中心にいるのは、林（旧姓河原）隼人という奇人です。英語でサッカーをやる教室の校長だったのですが、私と学校を作りたいと、漫画に出てくるような素敵なキャラクターの仲間を10人ほど引き連れて、花まるに来てくれました。秒単位でアイデアが噴出している男で、一年も経たないで、農業体験を通じて総合力育成の「みんなビレッジ」や、強い心と体を育てる「スポーツサムライ」、障がい者のアートをシャツなどに活かして自立を支援する「ノットイコール」などを次々と生み出しました。そして、「一番やりたいこと」として、この春から「花まるエレメンタリースクール」を始めました。

小学生向けのフリースクールですから、適当なことはできません。林に「どういう方針の学校を作りたいのか」と聞いたときに、彼はこう答えました。「スタッフが、朝から晩まで、預かった子たちのことを話し合っているチームにしたいんです」と。

外国生まれのOMOソッドでも出てくるのかと思ったら、その返事。私は「コロンプスの卵のようだな」と感じました。言われれば簡単に思えるけれど、発想することは凡人にはできない。そして、即座に「やろう！」と応えました。

そこにあるのは、子どもたちの安心が一番大事という慧眼です。ちょうど今年、私は一つの発見をしました。一年生で、離席が止まらない強めの多動の男の子がいるのですが、テーブルの子と喧嘩でもしようものなら、もうどうにもコントロールできなくなります。ところがあるとき、私の膝に乗せてお互いのぬくもりを感じる状態を抱っこして、「そうか、それは辛かったな」というように心をくみ取る対話をしたら、つきものが落ちたようにおとなしく席に戻って学びはじめたのです。その後も数回、効果があることを確認できたので、間違いないと思います。

私の太ももの文字通りのぬくもりと、真剣に気持ちを汲んでもらえる心のぬくもりを感じたとき、すなわち「ここは大丈夫」と世界への安心を感じたとき、落ち着きを

取り戻せるのです。

林がやるうとしたのは、まさに、何を教えるとかではなく、全スタッフが一致団結して真剣な想いを伝えることで、「ぬくもり」「安心の居場所感」を与えることでした。実際に始まってみると、3年も4年も学校に行けなかった子や、入学直後からずっと行けていないという子すらいる24名でスタートしたのに、全員が通い続けるどころか、ビルが開くのを待ちかねるくらい朝早くから来る子もいる状態です。ほぼ全員が不登校というあり方としては、奇跡的な実績ではないでしょうか。噂は早いもので、すでにさまざまな自治体の知事や教育長から、直接の問い合わせが入るなどしています。

既存の仕組みに吞まれて私も見失っていました。一番大事な心のぬくもりの価値を教えてくれた、花まるエレメンタリースクール。グループ全体で、支えていきたいと思っています。

花まる学習会 高濱正伸



高濱正伸 講演会

「メシが食える人、モテる人に ～親ができる具体策～」

日時 2022.11/27 10:30 ~ 12:00

開催方法 オンライン

(花まる子育てカレッジ YouTube アカウントより生配信)

特別観覧席 ▶ 会場 お茶の水エデュケーションプラザ
(ソラシティアカデミア 5F)

<https://www.hanamarugroup.jp/hanamaru/news/2022/10/17642/>

申込締切: 11/11 (金) 19:00

花まるだより 2022年 10月号
(令和4年 10月 15日発行)

編集・発行 株式会社こうゆう

花まる学習会

発行人 高濱正伸

企画・編集 久慈 菜津紀

編集 金井 彩・清田 奈南

坂田 翔・高橋 奈穂

デザイン 春日 梨沙・西野 奈布子

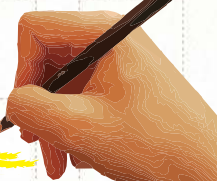
印刷 アークランド株式会社



【小学1～6年生】

11月の特別授業は…

作文コンテスト



年に一度の「作文コンテスト」が近づいてきました。自分の感じたことをそのままに言葉で表せるようになってきた低学年。哲学を始めたり、技巧を凝らした表現をとれるようになってきたりしている高学年。どの学年の子も、「作文コンテスト」では、持っている力を余すことなく発揮してくれることでしょう。

なお、子どもたちが書いた作文の中で、その子ならではの視点や気持ち、感性豊かな表現で書かれているものは『花まる作文集』に掲載されます。文集に載ったことがきっかけで、作文を大好きになる子が多いようです。イベントやお出かけたことだけではなく、普段考えていることや日常での些細な出来事など、身近なところこそ、素敵な題材が転がっているはず。ぜひ、日頃から目を向けてみてくださいね。



昨年度 受賞作品

おとうと

一年 女子

私のおとうとは、三才です。ようちえんの年少さんです。せがひくくて、90センチくらいしかありません。だから、せのじゅんも一番前です。私はせが高くてようちえんのときから、うしろから、二番目でした。年ちようさんのときに「何年生？」ときかれたりしました。

今は百三十センチくらいあります。三つちがいなのにもっと、としのはなれたきようだに見られます。おとうとは、小さいけど、すごいところもあります。この間のうんどう会で、かけっこ一番でした。私は一ども一番になったことがないの

で、おとうとは、すごいなと思いました。おとうとは、やさしいところもあります。この間マツコのハッピーセットでひみつのおもちゃが当たりました。私がほしかった白くまのぬいぐるみです。おとうとも、ほしかったと思うけど私にくれました。そんなやさしいおとうとが大好きです。

あと、おままことにつきあってくれたりするので、おとうとがいてよかったなと思います。だから、私もおとうとのすきなきょうりゅうごっこに、つきあってあげます。きょうりゅうは本当はすきではないけれど、きょうりゅうの名前をおぼえてしまいました。おとうとが生まれたときお母さんと一緒にいる気がしていやだったし今もおとうとがお母さんと一緒にいるのはさみしいです。でもやっぱりかわいなおとうとです。

あの子が、あんなことを…。

二年 女子

わたしのクラスの友だちに、さわがしい二人がいる。さわがしいということは、元気ということだけれど、うるさい時が多々ある。一人は、おうすけという子。二人目は、ゆうせいという子だ。その二人は、じゅぎょう中も、いつでもけんかしている。ある日、そうじ当ばんが図書室で、二人とも一しょになった。図書室には、長いぼうきと小さいぼうきがある。でも、二しゅるいとも、全いん分あるのではない。

それでも、図書室の当ばんのみんなは、長いぼうきをねらっている。もちろん、わたしもだ。ゆうせいは、いつも来るのはおそい。おうすけは、ふ通だ。ある日、おうすけは長いぼうきをもっていた。ゆうせいは、来るのがおそかったの、とれなかった。でも、ゆうせいは、ぜったいに長いぼうきをやりた。でも、ぼうきがあるはこを見て、たくさんあるのは、小さいぼうき。ゆうせいはない。たくさんない。すると、そうじ以外のことがおこった。おうすけが、だまっで長いぼうきをゆうせいにわたしたんだ。その時は、い外だった。本当にい外だった。ゆうせいは、おうすけからうけと

た後、何も言わなかった。ありがとも。でも、それにたいしておうすけは何も言わなかった。あんなにゆうせいとなかがわるいおうすけが、あんなことをするなんて、ぜんぜん思っていないかった。わたしの心の中のおうすけは、とてもさわがしくてうるさいおうすけだったのだけれど、それがパツときえて、とてもやさしいおうすけになったようだった。そのつぎの日の二人は、またけんかしてしまっていたけれど。

じじの口ぐせ

二年 男子

ぼくのじじは、くちぐせがあります。「ふん」というのです。なのに、みんなにすかれています。なのでそれはなぜかぼくを、けんきゅうしてみました。

まずじじはうれいときが多いとわかりました。なぜかわかたかという、ぼくが、「じじすこいね。」という、「ふん」といいます。そして、いろいろなけんきゅうをしたけれども、いろいろありました。

ぼくが、「ねえねえすこいでしょ。」という「ふん」といいました。なので、じまんとすると言ったこともわかりました。もう一つは、おどろくときがわかりました。ぼくがじじにないしよで、じじの家にいききました。ドアをあけて、「じじー。」という、おどろかないで、「ふん」といいました。ぼくは、おどろかないだーと思いました。つぎは、ぼくがうれしそうにしているときです。川にいったとき、つめたくなって「きもちー。」とにこつとすると、「ふん。」と言っていました。つぎは、やさしくすると「ふん」ことがはつけんされました。川でクッションでじじがねつころがるので、ぼくが、「もつていこうか？」ときくと「ふん。」と言いました。

もう一つは、おもしろいことをすると言ったことがわかりました。ぼくが石でベッドをつくる、いくらベッドでも石なので「いた。」という「ふん」と言っていたら、ぼくも「はは。」とわらいました。川からかえるとき車のタイ

ヤが石とぶつかって、ガタガタしていたので、パンクしないように、「タイヤががんばって。」とさけぶと、「ふん。」と言っておわらいしました。なかでもいんしゅうてきなものは、ぼくがつくったおどりをおどると「ふん。」と言いました。そのときぼくはきがつきました。「ふ」がひと文字多いとわかったのです。なので、ぼくはわかりました。「ふん」はレアだ！とかくしんしました。それをきくとぼくはうれしかったです。けれどたまに、ぼくがおもしろいことをいうとじじも、もつとおもしろいことをいいます。

じじの「ふん」はかわいいなと思いました。だからみんなにすかれていたとわかりました。これから、どんなときに「ふん」を言うのか、けんきゅうしていきます。

私の気持ち

三年 女子

そのとき、私はつめたい気持ちになっていました。

ある時、近くの公園に行き遊んでいました。すると同じようち園だったお友だちも来て遊んでいました。少し時間がすぎると、公園の入り口で私のお友だちは、トイレに行きたくてがまんできず、おもらしをしてパニックになってしまいました。

その子は、ちょっとふだんの私たちとちがって、理かいることが少しおそくパニックになりやすい子でした。公園にいる子で、その子のことを知っているのは、四人いました。パニックになっていたのです。その子のことを知っている二人がお家までつれていきました。しかしその時、私の体は動きませんでした。なぜその時、私の体は動かなかったんだろう？と思いました。つめたい心だったのかなとやみしました。

その後、おもらしをしたところを、水でながしておしまいかと思いきや、「SOS、ふまないでください」とお友だちが書いていたので、私もつられて書いてしまいました。その後、おもらしをしたお友だちがお母さんといっしょに公園にもどってきました。入り口を見て、びっくりしたと思います。

もしかすると、めいわくかけちゃったかな、なにか言われたらいやだな、公園にはもう行きたくないと思っているかもしれない。私だったら、公園で遊んでいる子、全員とも会いたくないと思います。

公園から家に帰って今日の出来事をお母さんに話すと、そんな事があつたんだねと話を聞いてくれました。

夜、ふとんに入り、今日のことをふりかえると、「SOS、ふまないでください」と書いたことはよいいな事だったな、と思いました。その子の気持ちになつたらいやでいやでなきたくなります。私はいやなことをしてしまい、はんせい中です。……自分にできたことは、少しゆう気があるけれど、水でながしてお友だちを家までおくって家からブラシをもつてきてあらう、かわくのをまつこと。そうすれば、つめたい気持ちではなく、ふだんの私だと思います。お友だちもいやな気持ちにならなかつた気がしています。今はそのことをやればよかったところかいています。これからは人の気持ちを考え、行動できる人になりたいです。

まずは、おもらししたお友だちにいつもどおり「おはよう」と言いたいです。

変わらないもの

六年 女子

私には、年子の姉がいます。そして今年の春、たくさんの桜が咲きほころび、中学生になりました。小さいときから優しく、面白くて、いつも困っているときに助けてくれた、そんな姉の存在は、いつまでも変わらないものだと思っていました。けれど、今年はずがいました。最初は、勉強に習い事にと両立している姉の姿に、感心し、驚きました。いつも笑っていた姉が真けんな表情になっていたからです。そのときは、姉を応えんしたい気持ちでいっぱいでした。ですが、それが姉との関係に変化が生まれるはじまりになりました。一ヶ月、二ヶ月とだんだんと時が進むにつれ、姉の顔か

おうちの方へ

- 教室で1作品を書きます。作文コンテストのために下書きをしてくるなどの準備は必要ありません。
- 作文集には学年と個人名が掲載されます。個人名の記載を希望されない方は、あらかじめお通いの教室長にご連絡ください。
- 作文集に掲載された作品より、花まるグループのHPやSNS、書籍などに個人名を出さずに掲載させていただくことがあります。掲載を希望されない方は、あらかじめお通いの教室長にご連絡ください。

らは勉強と習い事の深刻さが伝わってくるようになりました。頭をかかえたり、した打ちをしたりすることも多くなり、その姿を見て心配になりました。そして、前と姉の様子が変わります。少し怖くなつてしまった自分もいました。そしていつからか、そんな姉としゃべることがなくなっていました。それでも私は、姉を応えんし続けたいと思いました。小さいときから仲が良く、ずっと一緒にいて、いつもよりそつてくれた姉に、今度は私が応えんをしてあげたいと思つたからです。だから私は、お菓子を買つたり、手紙を書いたり、たくさん工夫しました。昨日の朝、習い事があるのに、いつものように寝坊をしていた私は、だれかに起こされました。目を開けられなかつた私は、その人を母だと思いました。どんな毛布をはがされ、その姿を笑われ、イライラした私は、ゆっくり目を開け、「やめて」と言おうとしました。けれど、そこにいたのは姉でした。ウトウトしていた私でしたが、シャキーンと目が覚めました。姉がこんなことをしてくれたと思うだけで、うれしくてうれしくてたまりませんでした。ルンルン気分だった私は、大好きなぬいぐるみとお気に入りの毛布を持って一階へ向かいました。少し明るくなつた姉を久しぶりに見ることができて、私も明るくなりました。大変なこともたくさんあると思うけれど、これからもお互いの手を取り合つて、乗り越えて行きたいです。私にとって、姉という存在はやっぱり変わらないものだと思います。



こん げ っ

今月のレインボータイム

みずぐち れい
出題：水口 玲

はな がくしゅうかい
(花まる学習会)



いま なんじ
【今 何時？】

デジタル時計の表示がこわれてしまった。

ほんすう ふ ただ じかん
の本数を増やして、正しい時間 00:00～23:59 にしよう！

かいどう
解答はこちら！



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

レベル 10

1 × 4 本

00:00

1 × 4 本

02:00

1 × 7 本

04:00

1 × 7 本

00:04

1 × 9 本

00:00

レベル 50

1 × 11 本

02:00

レベル 70

1 × 14 本

00:04

レベル 99

1 × 16 本

00:00



勝谷 里美

花まる学習会の教室長を担当しながら、花まる学習会や公立小学校向けの教材開発や、書籍出版に携わる。現在は、3児の母として子育てに奮闘中。著書に『東大脳ドリルこくご伝える力編』『東大脳ドリルかんじ初級』『東大脳ドリルさんすう初級』（学研プラス）ほか。



親としてのPDCAを、淡々と、楽しく、続ける

少し前ですが、『ミステリと言う勿れ』というドラマが放送されていました。原作の漫画もドラマも楽しんでたのですが、そのなかの一場面でも心に残る部分がありました。主人公がディベートについて語る場面で、「誰かがあなたの意見を否定したとしても、それはあなたの自身を否定することにはならない」といった趣旨のセリフ。この考え方は、子育てにも転用できるのではないのでしょうか。

子育てに正解はない、とはよく聞きます。じゃあ何を基準に子どもに接するかと考えると、自分自身の経験は大きい。「私自身が自分の親にしてみらっただけでよかったと思ってること」や、「私自身が、これは絶対に大切」と思うもの」が基準になってきます。

そこで難しいのが、「それがわが子にベストマッチするとは限らない」という点です。子どもは自分とは別の人間なので、興味関心も、考え方も、愛情の受け取り方もちがう。なのに「私がかかったと思うこと」や「私が大切だと思うこと」を、子どもから否定される（反抗される）と、「私自身が否定されてしまった！」と感じてしまいい、かーと怒って上から押さえつけてしまったり、だめな親だな、と落ち込んでしまったり…。私のなかに、そんな心の動きがあることに気づきました。

でも、そうじゃない。ただただ、方法がマッチングしなかっただけ。私の声かけや提案に反

抗されたからといって、私自身が否定されたわけではない。否定されたのはその声かけや提案の部分だけだ。人と人なんだからぶつかることもあるだろう、ぐらい大きく構えていいのかもしれない。

親と子ども。人としてのちがいもあれば、時代のちがいも大きくあるでしょう。たとえばYouTube。昔はそもそも存在しなかったけれど、いまは、あつて当たり前の時代。なのに「見ないようにする」や、「約束の時間が来たらすんなりとやめる」って、なかなか大変なことに挑戦しているんだな、この時代の子どもたち。と思うと、いまの時代の子どもたちは、親の自分が立ち向かう必要のなかった困難に立ち向かっている、と言えるでしょう。時代がアップデートしているように、自分のなかにある「子ども」や「教育」像もアップデートし続ける必要があります。

「いまの時代の子ども像」を冷静にとらえつつ、寄り添えるように努める。ただ、やっぱり、なんでも子どもとの意見に合わせすぎてしまつのもちがいます。どうしてもこれは譲れない、という子育ての軸は、家庭で持つておく。ただ、その軸が、自分が子どもとのときはこうだったから、という判断基準ではなく、家庭で話し合い、いま何を大切にすべきかという点を、欲張りすぎずに設定する必要があるでしょう。

「反抗期は次の成長の準備をするとき」（子どもへのまなざし）著・佐々木正美）といいますが、子どもに反抗されると、やっぱり、親の心は揺らいでしまふ。だけどそれは、私自身が否定されているわけではなく、やり方がちがっていただけ。

反抗「期」なので、やり方を変えたところで反抗は続くかもしれない。けれど、反抗されたことを事実として受け止める↓子どもを観察して、「もっという方法はなかなかな？」「次は何を試してみようかな？」とPDCAを淡々と回していく。それは親である自分自身を成長させていくためのプロセス。must感からではなく、楽しみながら。子どもに期待するのではなく、親としての自分の成長を楽しむに、PDCAを回していけたらよいな、そんなふうに思いました。



『おばあちゃんの小さかったとき
(福音館の科学シリーズ)』
おちとよ 文
ながた はるみ 絵
(福音館書店)

私が子どもの頃に読んで好きだった『母さんの小さかったとき(1988年刊行)』。その改訂版として出版されていて嬉しくなりました。昭和の子どもの様子を思い馳せながら、そこから現在までアップデートされてきた子どもを取り巻く環境についても、考えさせられる一冊です。『おじいちゃん』版もありますのでぜひ！

職人の無人島レポート 18

醤油メシ④

いよいよ近づくサマースクール。「花まる子ども冒険島」で子どもたちを受け入れるため、カトパンと職人の新たな挑戦が始まりました。

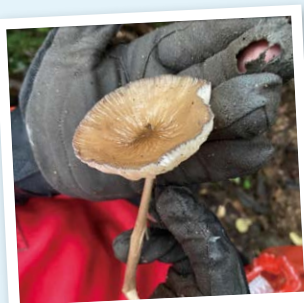
山頂から南側のエリアは、ほぼ斜面が崖しかない。滑落しないように注意しながら、つづら折りに下りていく。道中、ビワを見つけたら、たきにもぎ取って「うまー」と水分補給をしていたのだが、そのなかに普通のサイズの2〜3倍ほどもあるひとき大きな実がなっているのを見つけた。南側で日当たりがいいせいかもしれない。野生のビワでもこんなに大きくなるのか、と感動したあととビワの譲り合いが始まった。「いやここは職人が」「いやカトパンこそ」と、ひとしきり親戚同士の「ここはうちが払うわよ」的な譲り合いを繰り返した結果、譲り負けて私が食べることになった。カトパンの譲り力はおばちゃんにも引けを取らないものがある。「うへへ」と盗賊のような笑いを浮かべながら丁寧に皮をむくと、大きくみずみずしい果肉が現れた。いただきます、と口に運ぼうとして手を動かしたそのとき、斜面でよろめき体勢がガクツと崩れ、その拍子にビワが手を離れて、土まみれになりながらもすこいスピードで転が落ちて見えなくなった。一瞬の出来事だった。言葉にできない。こんなとき、ちよどいい四字熟語が何かあったはずだ。たとえばそれは？たとえばそれは、小田和正。

ビーワンシヨック、というギャグを思いついたが何の慰めにもならなかった。そのまま南のビーチに到着する。当然といえば当然だが、人気がない。そもそも無人島なのだから当たり前だと思うかもしれないが、案外そうでもない。というのも、来島はいまでこそ無人島だが、昔は果樹園として利用されていた。その当時の名残はいまも島の所々に目にするることができる。だから、人がいたという時間の面影のようなものを感じることがある。しかし、このビーチは本当に手つかずのまま、という感じだ。島のなかでもかなり原始的な場所といえるかもしれない。船では来れないし、あえて徒歩でこんなところまで来るメリットもない。ひよつとしたら、最後にここに人が来たら、リアルに100年以上たっているのかも知れない。そう思うと何か不思議な感じがした。それほど人工衛星が地球を隅々まで地図に起こしても、まだ人が足を踏み入っていない場所はある。何千年も前から、まだ一度も人間がそこに立つて五感で捉えられたことのない場所があるとするれば、それは月よりも遠い場所だ。誰も行くとも思わないがゆえに前人未踏。そんな場所が意外と身近にあるのかもしれない。だとすれば、インディ・ジョーンズは死んでいない。

まだ冒険は死んでいないのだ。それにしても、行く必要のない場所に行きたくするのはなぜだろうか。好奇心というのは宇宙のなかでもかなりおかしい振る舞いをするエネルギーだと思ふ。

拠点に戻ると、夕方になっていた。まだ日があるうちに夕食の準備を始める。これからいよいよ、醤油メシを食べるのだ。

(つづく)



ウラベニガサゲル。シカタケともよばれる食用キノコ。全然是ていない。



キクラゲ。スーパーにもある食用キノコ。クラゲではない。

カトパン 加藤 崇彰

花まる学習会 無人島プロジェクト責任者。学生時代から、花まるの野外体験に深く関わってきた。現在は広島県へ移り住み、オンライン教室の教室長を務めながら、開拓団の受け入れや無人島開拓の準備を進めている。



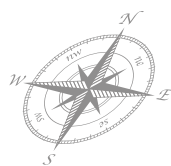
職人 橋本 一馬

花まる学習会関西ブロック教室長。前職が家具職人だった経歴から、「職人」のモデルネームを持つ。その経験を中心に、野外体験「ものづくりの国」、オンライン工作教室など、独特なイベントを担当している。家具製作技能士、狩猟免許など、ちよと変わった資格や経歴を活かし、「メシが食える大人」に独自の視点でアプローチを行うことが好き。今回、趣味のキャンプ経験を買われ、無人島開拓に喜んで参加した。



今どうしてる？

卒業生物語



花まる学習会・スクールF.C卒業生のその後に迫るインタビュー！
第15弾は、テレビ局で奇跡的な再会を果たした、伝説の卒業生にインタビュー！

ようこそ先輩！！



う かわ み う
宇川 美卯さん

【花まる学習会】南浦和教室（年長～小学3年生）
＊担当教室長：高濱正伸・Rin（井岡由実）
【進路】聖心女子学院→早稲田大学
【現在】テレビ局社員

いました。

高 ははははは。

宇 サマースクールや雪国スクールにも参加しました。幼い私にとっては大冒険で、行動範囲が広がったのは野外体験のおかげかもしれません。

高 臆せず外へ出ていくチャレンジ精神が身についたんだね。

■学生時代のこと

高 小さい頃から海外に行っていたよね。

宇 小学4年生から中学1年生までをスペインで過ごしました。帰国してからは美術の道に進もうと、東京藝術大学を目指して必死に勉強しました。

高 厳しい世界に飛び込んだんだね。

宇 狭き門なのでほかの道も考えて、同時に早稲田大学の国際教養学部を目指すことにしました。英語を忘れたくなかつたし、表現を学べる学部に行けば芸術からは外れないと思って。

高 絵が好きなの？

宇 特にイラストを描くことが大好きで、小さい頃から日常的に描いていました。自分の好きなことを仕事にしたいくて

この道を選んだのですが…受験で挫折しました。

高 どちらもレベルが高いいからね。

宇 予備校には芸術と学術を同時に鍛えるコースがないので特別に作ってもらったのですが、あまりにも過酷で。これでは絵を嫌いになってしまうのではないかと、高校3年生の夏に志望校を早稲田に絞りました。早稲田で大好きな絵を描き続けて、美術を学べる総合大学も多い海外で表現やアートを学ぶことにしたんです。

■テレビの道に進んだ理由

高 最終的に、テレビの世界に進むことにしたんだね。

宇 大学時代はサークルにも入らずに絵を描いて、イギリスに留学してアートを学んで、目標だった個展を開いて、出版社を回って夢だったイラストレータのお仕事をさせていただきました。実際に仕事してみると、自分が描きたいものを表現することと求められるものを作ることは違つことに気がついて、将来の道

を考え直すようになったんです。ちょうどその頃、留学中によく観ていた日本の



古いテレビドラマに惹かれるようになりました。私にとってドラマは青春で、子どもの頃は大好きなドラマを観るために1週間を頑張れたし、友達とドラマについて語り合つたことが大切な思い出になっています。ドラマがあつたから人生が暗くならなかったんだと気づいて、私も誰かの人生の楽しみを作れる人になりたいと、テレビの道を目指すことにしました。

■これからのこと

宇 入社して3年目、まだまだ駆け出しです。ドラマ制作に携わる夢を叶えられるように、実力を磨く時期だと捉えています。

高 インブットの期間も大切だね。ちゃんと自分の人生を生きている美卯だから、これからが楽しみだよ。応援しています！

宇 ありがとうございます！

留学中の経験やテレビ局での日々など、続きはこちら！





ディズニー作品でおなじみの『シンデレラ』ですが、原作ともいえる物語はいくつか存在します。なかでもシャルル・ペローの『サンドリヨン』とグリム童話の『灰かぶり』が有名ですが、今回はグリム童話の『灰かぶり』をテーマにしました。

『グリム童話』はグリム兄弟が作りましたが、彼らがゼロからお話を作ったわけではありません。各地に口頭で伝わる物語を、本にまとめて出版しました。そのため、さまざまな地域にグリム童話によく似た物語があるのです。

よく、グリム童話は残酷だ、と言われます。今回の『灰かぶり』も、意地悪な姉たちが報いを受ける場面がありますが、昔話の特徴として写実的に語らない、というものがありません。口伝で語り継がれてきた物語のため、写実的に語ってしまつと、聞き手がストーリーを追えなくなってしまうのです（個人的には、グリム童話よりも日本の昔話の『三枚のお札』のやまは、『かちかち山』のほうが怖かったです）。

その意地悪な継母や姉たちが、灰かぶりを舞踏会に行かせまいとレンズ豆を灰のなかにまいてしまします。レンズ豆は栄養価が高く、海外では定番のたんばく源としてポピュラーな食材のようです。灰かぶりは

到底1人ではすべてを拾うことができず、物語のキーとなる鳥に助けてもらい、無事に拾い切ることができののです。そして、その鳥がどこからか持ってきた金と銀の素敵な服を着て、舞踏会に出かけることになります。

家はとさん 山はとさん それから空の鳥たちや、みんなみんな、きておくれ わたしがひろうのてつだつて！

よい豆は おなかのなかへ、わるい豆は おなかのなかへ

ディズニー版ではたった一度だけ舞踏会に出かけていますが、グリム版では3回も舞踏会に出かけます（そしてその度にレンズ豆の意地悪をされています）。この「3」という数字は、昔話によく登場します。3人兄弟だったり、3つのアイテムだったり。同じ展開を3回繰り返すという手法もよく使われており、『灰かぶり』はまさにそのパターンです。3回舞踏会に行き、同じ場面を繰り返すことで、物語にリズムが生まれまします。前回の『おだんごパン』でも紹介しましたが、こうした繰り返しが、子どもたちは大好きです。聞いていると安心感を覚えるのだそうです。

自分で本を読むことで読書の幅は広がります。その前のステップとして、自由に想像の翼を広げて物語の世界に没頭できるところに、語りの良さがあるのではないのでしょうか。

PICK UP



『子どもに語るグリムの昔話4』
著者 佐々梨代子 野村滋 訳
(こくま社)



はな 花まる学習会
たばた あつこ 田畑 敦子

田畑 敦子



レンズ豆のスープ煮

作業時間：30分 難易度：★☆☆☆☆

レシピ・写真提供：料理家 江口 恵子 (natural food cooking)



材料

レンズ豆……………	150g	オリーブオイル…	大さじ 1
にんにく……………	1 片	水……………	400ml
玉ねぎ……………	1/6 個	塩……………	小さじ 1/2
		月桂樹の葉……………	1 枚
		黒胡椒……………	少々

作り方

- ①レンズ豆は皮が破れないように優しく洗ってざるにあげて水気を切る。
- ②にんにくと玉ねぎはみじん切りにする。
- ③鍋にオリーブオイルと②のにんにくを入れて弱火にかける。にんにくの香りがしてきたら玉ねぎを加えて中火にする。玉ねぎがしんなりするまで炒めたら、①のレンズ豆を加えさっと炒めて、水を注ぎ入れる。塩と月桂樹も加え、沸騰したら、弱火・蓋をして 20 分加熱し火を止める。黒胡椒を加えてひとまぜしてできあがり。



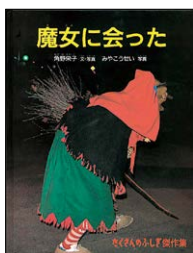
「異界」との出会い



『あやかしファンタジア』

さいとう ひろし 作
斉藤 洋
もりた まちよ 絵
森田 みちよ (理論社)

主人公の「わたし」とある町で体験する、数々の奇怪な出来事を描いた連作短編集。商店街、マンション、学校、野球場……。『ひとりであやかし』や『ゴースト・ストリート』シリーズなど、実は怪談の名手でもある斉藤氏による独特な妖しさが魅力。それぞれのエピソードの真相が明確には語られない演出も、恐怖感を倍増させています。



『魔女に会った』

かどの えいこ ぶん しゃしん
角野 栄子 文・写真
みや こうせい 写真
みや こうせい (福音館書店)

2018年4月に国際アンデルセン賞を受賞した著者（代表作：『魔女の宅急便』）による、世界の魔女をめぐる旅行記。ドイツやベルギーで今も行われる魔女祭り、火あぶりの刑を再現した猫祭り……。終盤では、作者自身がルーマニアに住む「現代の魔女」を訪れたエピソードが描かれます。写真がふんだんに使われていて、作者とともに旅をした気分。



『えほん遠野物語 おいぬさま』

やなぎた くにお げんさく
柳田 国男 原作
きょうごく なつひろ ぶん
京極 夏彦 文
なかの まさのり 絵
中野 真典 (汐文社)

「日本民俗学の父」柳田国男による民話集『遠野物語』を絵本化したシリーズの一冊。岩手県遠野地方で神の使いとしてあがめられる「おいぬさま」の話の数々が、鮮烈な印象を与えるイラストで描かれています。すべてのページから、おいぬさまのうなり声や遠吠えが聞こえてくるかのような、不思議な臨場感があります。同シリーズの『ざしきわらし』『かつば』『しびと』などもあわせておすすめ。



『シノダ! チビ竜と魔法の実』

とみやす ようこ かく
富安 陽子 作
おおば けんや え
大庭 賢哉 絵
かいせいしや ぶん
(偕成社)

一見ごくふつうの家族である信田家。しかしユイ、タクミ、モエの3人きょうだい、人間のパパと妖怪狐のママとの間に生まれた子どもたちでした……。人間界の常識が通じないキツネ一族の親戚たちが持ち込んでくるやっかいな事件と、さまざまな異能力を受けついだ3人の子どもの活躍を描くシリーズの一卷目。もともたは、陰陽師・安倍晴明の母とされる妖怪狐が登場する『信田妻』という伝説です。



『にちようめのおばけやしき』

こぐれ まさお かく
木暮 正夫 作
わたなべ ゆういち ぶん
渡辺 有一 画
いわさきしよん ぶん
(岩崎書店)

家出したタツヤは町をさまよい、ひよんなことから「おばけやしき」として知られる2丁目の空き家に泊まることになります。そこでタツヤが会ったものとは……。ちょっと怖いけれども心温まるストーリー。「時の流れとともに失われゆくもの」への思いが描かれていて、単純な怪談ものとは一線を画します。続編の『三ちようめのおばけ事件』などもあわせておすすめ。

全国から参加可能!

11月〈第7回〉ようこそ「この世ならざる者たち」の世界へ

おばけ、幽霊、魔女、妖怪……。子ども本にはそうした異世界の住人たちがたくさん登場します。目には見えない「アナザー・ワールド」からの使者である彼らは、日々何気ない日常を送る私たちに何を語りかけるのか？ ちょっと怖いけれど魅力あふれる、「この世ならざる者たち」の世界へとご案内します。現代でも生まれ続ける都市伝説の紹介や、ゲストによる「怪談落語」もお楽しみに！

11/17 (木)・11/19 (土) 10:30～12:00 参加費 一家族 500 円 (税込)
申込締切 開催前日の 19:00

<https://www.schoolfc.jp/extension/j-hiranuma/2022/>





ロベルト・ シューマン

1810～1856 ドイツ

vol.38

アノネ ラウンジ Lounge

アノネ音楽教室の作曲家の人生を辿る伝記教材『オペラ』の一部をご紹介します！クラシック音楽の作曲家を毎回一人取り上げて、名曲が生まれたストーリーに迫ります！



シューマン

作 作曲家ロベルト・シューマンは、1810年 6月 8日、いまのドイツにある自然豊かな美しい街、ツヴィッカウに生まれました。家族で演奏会や劇場に出かけることもあり、9歳のときには、モーツァルト作曲のオペラ『魔笛』を見てとても感動します。ピアノを習いはじめると、毎日何時間も練習に打ち込んだシューマン。その才能はどんどん花開き、ピアノを弾きながらその場で作った曲を演奏する、即興演奏をよく家族に披露していました。

20歳のとき、旅先で天才ヴァイオリニスト、バグニーニの演奏を聴いたシューマンは、大きく心を揺さぶられました。「法律でも、文学でもなく、音楽で生きていこう」そう決めたシューマンは、厳しいレッスンで有名なピアノの先生ヴィークに弟子入りすることにします。ヴィークの家に住みながらレッスンを受け始めたシューマン。同時に作曲の勉強もして、本格的な曲作りをする

スタートさせるのです。

素晴らしい才能を持った女性ピアニスト、クララとシューマンが恋に落ちたのはシューマンが 25歳の頃でした。クララは、厳しいピアノの先生ヴィークの娘。9歳年下のクララとの恋を、ヴィークは絶対に許しませんでした。二人はこっそり手紙を交換し合い、結婚を約束します。シューマンはクララのために曲を作り、クララはそれを演奏会で披露することで愛を伝え合いました。

恋の始まりから5年を経て、クララと結婚した年。シューマンは歌が入った曲、「歌曲」を次々に生み出します。「幸せなことに、メロディがどんどん思い浮かぶんだ。」この一年をシューマンは「歌曲の年」と振り返っています。そして次の年は「交響曲の年」、その次の年は「室内楽の年」になりました。シューマンはクララとの幸せな生活のなかで、たくさんの曲を生み出していくのです。

『子どもの情景』

Op.15 より《トロイメライ（夢）》（1838年）

シューマンには素晴らしいピアノの才能がありました。ところが、だんだんと右手の指が自由に動かさなくなってしまいます。指の形を直すための器具を手につけたまま練習したせいだとも、使っていたピアノの鍵盤が固すぎたせいだとも言われていて、本当の理由は謎のままです。ともかく、シューマンは右手が不自由になったせいで、ピアニストとして生きることができなくなってしまいました。ピアノが弾けなくなってしまった分、シューマンは作曲に打ち込みました。やはりピアノが大好きだったので、美しいピアノ曲を多く残しています。

聴
い
て
み
よ
う



編集：佐藤 泉純（アノネ音楽教室）

<https://www.youtube.com/playlist?list=PL7kd0pC6w0ucOxb6xRttYKpIsuzalWxRo>

伊藤潤・イトール | 他塾にいる頃、「高演学級」に参加し、花まるに惚れて入社してくれた人物。独自の視点を明確に持ち合わせていて、花まるもスクールFCも両方やることは大変なのですが、望んで両方をやり続けてくれました。いまでは時代の先端塾と言われるシグマTECHの創設者兼責任者。彼のこれからが楽しみです。

こころと頭を
同時に伸ばす
幼児期の子育て

Rinコラム

39

「子どもたちが自分の意見を 持つために」—大人の聞く力

「どの作品が好きだと思った?」「どこをそう思った?」そう問いかけるとき、ある反応をする子どもたちがいます。「大人が求めている答え」を探そうとするあまり、言葉に詰まるのです。そんなとき、どういった姿勢でいれば、子どもたちが次第に自分の言葉で話し始めるようになるでしょうか。

それには「聞く力」が関係しているかもしれないと最近気がつきました。彼らが創作中につぶやくように語った言葉も、「いいこと思っていた!」も、一見全体の流れを遮るかのように見える「質問」も、その場で丁寧に拾い、すくいあげ、話した内容を否定せずに、受け止めることを大切にしていこう。

人は、聞いてくれる人がいるからこそ話をすることができ、関心を寄せてくれていると思えば、言葉は自然に生まれてきます。そうです。大人の側の「聞く力」です。つまりそれは、話している相手に、(話の内容を理解すること以上に)「最大の関心を寄せるということ」。

子どもたちは、ありのままの自分を受け入れ

てもらえる「安心できる場所」に身を置いてこそ、思考をめぐらせることができます。落ち着いて考えることができるのです。「自分の言葉」が生まれ出す瞬間です。そして彼らは、話を聞いてもらえているかいないか、すぐに見抜かれます。

子どもにとっての大人というところ、教えられる、との関係が多いものです。大人って、子どもについて教えたくなってしまう。ですが、誰もが思ったことを言葉で環境を作り出そうとすると、私は彼らと、対等でフラットな存在でありたいと思うようになりました。

教えるよりも、共感する。どんな発言も「価値があるんだよ」と尊重する姿勢を示す。作者がどう思うかを込めたのか、観賞するときに見る側が何を感ずるのか、「誰もがどんな見方をしてもいい」。

「なぜそれが好きだと思っただろうか」正解も不正解もない質問は、自分を表現することです。その発言を「ジャッジ」されるのではなく、受け入れてもらえる。周りの子どもたちも「いいね」という雰囲気になっていく。次第に作品だけでなく、仲間の人格の「いいところ」を観察し、探す目も養われていく。自分の気持ちをシェアする楽しさや、知る楽しさを感じていく。

鑑賞や観察には、決まった答えがありません。「私」の感じ方・捉え方は、世界に一つしかないのです。「自分がどう感じるのか」を認識すること、そして、感情が動いたものについて誰

かに伝えることは、子どもたちの成長にとって欠かせないものです。自分は何を好きなのか、何に違和感を覚えるのかを知ることは、将来進む道を選ぶときにも生きてきますが、それ以上に、自分の感覚が誰かに受け入れられることは、自己肯定感の形成や他者理解につながるのです。

「存在のすべてを受け入れられた」と彼らが感じられたときに、自分の力で変わっていくものなのだ。20年も前、不登校児やその家族と向き合っていたときに感じたことが、私の子どもたちとのかかわり方の根幹を作ったのだと思います。

「一つの正解を効率よく求める」のではなく、納得解・最適解・合意案を見つけて出すための力を身につけなければならぬいまの時代では「一つの物事にはいろいろな見方がある」ということを知り、異なる考え方を理解するために対話することも求められます。

世界が激変していくなかで、「私たちはどのように学び、生きていくべきか」という問いに向かい合うこと。それが、ARTを通してできる教育の一つだと考えています。

家庭でも、聞く側である私たち大人のあり方を少し意識してみると、何か発見があるかもしれません。

Rin (井岡由実)

続きを音声で聞きたい人は
アトリエラオ#99



<https://youtu.be/kZlp0c-ldqU>



オンライン

Atelier for KIDS

全国から
参加可能!

11/13(日) 10:30 ~ 12:00 フェルトのオーナメント

参加費 1名 2900円 (税込・材料郵送費込)
定員 小学1年生 ~ 中学生 36名 (抽選)
申込期間 10/7(金) ~ 11/2(水) 19:00

<https://www.hanamarugroup.jp/art-edu/news.php>



Rin (井岡 由実)

花まる学習会取締役、「ARTのとびら」主宰。児童精神科医の稲垣孝氏とともに、心を病んだ青年たちへの専門的な対応に専心。花まる学習会中・年長向け教材開発に携わり、冊子『1年生になる前に』では、幼児期に伸ばしたい能力や感性の教育について論じる。著書に『こころと頭を同時に伸ばすAI時代の子育て』(実務教育出版)ほか。

RinさんへのSNS
ARTのとびらYouTubeなど
すべてのリンクは
こちらから▶



祖父に教えてもらったこと

この仕事をしていると、多くの子どもたちがおじいちゃん、おばあちゃんのことを慕っていることがよくわかります。「今日ね、花まるが終わったらじいじのうちに行くのー」という報告を頻繁に受けます。私にも甥や姪がいますが、彼らも私の両親でもある祖父父母をたいそう気に入っているらしく、「じいじ」「ばあば」と言って振り回しています。両親も孫のわがままに「まったく…」と言いながらも、楽しそに「じいじ」「ばあば」になっています。

この「じいじ」「ばあば」という単語、最初に聞いたときは驚きでした。私にとって祖父父母は少し恐れ多く、冗談でも「じいじ」「ばあば」と呼べる存在ではありませんでした。いま思えば、みな優しく「何をそんなに恐れていたのだろう…」と、思っています。引つ込み思案だった私には、両親以外の大人は敬遠する対象だったのです。

新潟の加茂という町に、父方の祖父父母が住んでいました。雪の降る町です。近くには山があり、その中腹に神社があります。その神社の参道はふもとを流れる緩やかな川に続いていきます。その参道と、雁木と呼ばれる雪国特有のアーケードが

続く商店街が交差するまちかどに、祖父父母の家がありました。祖父父母はそこで小さな飲食店を開いていたのです。盆と正月の帰省の度に、夏は小豆アイスを、冬には今川焼を孫たちにくれました。お店のほうまで回って「おじいちゃん、今川焼ください」と言うのにも私は緊張していましたが、そのときにも私は緊張していません。今川焼を食べたことはいままでありませんし、今後もないことでしょう。

祖父に厳しく叱責された

記憶があります。お年玉が何かを祖父に手渡されたときのことです。緊張していたので、う。受け取るのすぐ母の膝に逃げ込んだのです。「たかし、ものをもらったら『ありがとう』と言わなければいけません！」と厳しく叱られました。大人になつたいまわかることですが、あれほどの確な説教はありませんでした。矢のように放たれた言葉は、私の倫理観の中心を射抜き、いまなお黄金律の如くその教えを守らせているのですから。

祖父に直接何かを教えてもらったことは、それ以外にはなかったかと思えます。昔の男でしたから口数も少なく、会話も「よく来てくれたね」と「また来てね」と



vol.6

by 山崎 隆

言われるくらいでした。言葉や理屈で何かを教えてもらうことはあまりなかったのです。

私が二十歳を迎える夏、祖父は亡くなりました。悲しくはありましたが、それは突然のものではなく、来るべきときに来たもので、大人になった私には受け入れられないことではありませんでした。神仏をまつた信じていなかった祖父ですが、葬儀は形式通り行われました。火葬されるときの悲しさ

こみ上げてきました。いよいよ最後のお別れだと思つたのです。そのとき火葬場で職員の方が話しかけてくれたことをいまでも鮮明に覚えています。「参道の角の山崎さんですよね。夏祭りで神社から川に行くときに、いつも小豆アイスを買っていたんです。毎年あれが本当に楽しみでしたね。ありがとうございました」こう言って、静かに手を合わせてくれました。

そのとき、私は想像したことなかった若き日の祖父の姿を思いました。汗水たらして働き、家族を養い、町の子どもたちを喜ばせる一人の青年としての祖父の姿が思い起こされたのです。その一生懸命生きる姿が、回りまわって孫の私に

伝わってきたとき、その人生がとても美しいものと思えました。

結局、一番大切なことは祖父に教わったのだと思っています。ただただ一生懸命に生き、まじめに働き、家族を養つこと。それは言葉にして教えてもらったものではありません。祖父の人生全体を通して伝えられたものです。

祖父の死から二十回目の夏が過ぎました。あの頃は若かった私の両親も孫を持ち、おじいちゃん、おばあちゃんになりました。ただ、私の祖父父母とはだいぶ違つた、孫に甘過ぎる「じいじ」と「ばあば」になっていて「ちょっとどうなのか」と思うこともありすが、あまり心配はしていません。祖父父母と同じくまじめに生きてきた両親のことです。別の形で、同じことを伝えていくのでしょう。

花まる学習会 山崎 隆



山崎 隆 Yamazaki Takashi

東京東ブロック教室長。千葉県の内陸部出身。2歳上の姉と3歳下の弟と、だっぴろい関東平野の片隅で育つ。小さい頃、外遊びはもちろんだが室内で遊ぶのも好きで、図鑑を開いては恐竜の世界を想像していた。高学年の頃より伝記を通して歴史に親しむ。休みの日には、青春18きっぷで目的もなく出かけることを楽しみにしている。

この夏、夢がひとつ叶いました

私たち花まる教室長にとって、教え子が帰ってくるのはとても嬉しいことです。用事もなくふらっと教室に立ち寄り、弟や妹の迎えに来たり、合格の報告をしに来たり。突然の訪問に驚くことも多いですが、その立派な姿を見ることで頑張るエネルギーをもらえます。彼らの存在は、私の夢そのものです。けれど一つだけ、まだ叶っていない夢がありました。

はじまりは2か月前。本部に届いた一通のメールでした。

「高校生になったら、高校生リーダーになりたいと思うていました。優太先生の教室でした。」

送り主はHちゃん。私が担当した教室の一期生です。授業後、毎週のように友達や弟と園庭で遊んでいた様子が、色濃く記憶に残っています。私の腕にぶらさがってグルグル回ることが大好きで、何度やったか数えきれないくらい。楽しそうに、よく笑う子でした。その一方で、当時の私のメモには「自信がない。学校でも手が挙げられないことが悩み。人と話すのが苦手だと本人は言っている」と書かれていました。心を許せば笑顔を見せるのですが、そのハイドルが非常に高い。慣れた場所とそれ以外

では、別の顔があるようでした。そんな彼女から連絡が来た時点でまず驚き。そして、高校生リーダーになりたいと思っていたなんて思ってもみなかった。「どんなリーダーになるのかな」と楽しみにしていたら、縁あって、彼女は私が責任者を務めるコースに参加することに。またまた驚き！夢にまで見た、リーダーになった教え子と行くサマースクール。ずっと続けてきてよかったと、感慨深いものがありました。

出発の日。彼女は緊張した面持ちで現れました。背は伸び、大人びてはいましたが、当時の面影が残っています。

「今日からよろしく願います。正直昨日の夜、優太先生にメールしうか何度も迷ったけど…。いや、ここでしちゃダメだ。頑張ろう。」と思っ

て来ました」

覚悟を決めて、この日を迎えたようでした。前日の夜。実は私も「H、いよいよ明日からだね。緊張してないかい？楽しみにしているよ」とメールを送ろうとして、やっぱり止めました。普段、前日リーダーにメールを送ることはありません。大丈夫かなと心配になってしまいう親戚。いくつになっても、教え子は教え子ですね。そのときに聞いた高校生リーダーとして

花まるコラム

2022年10月

の彼女の目標は、「人の目を見て話すことを心がける」でした。Hちゃんらしい目標だなと思いつつ、私もその背中を押そうと心に決めました。

最終日、上野で子どもたちを見送ったあと、彼女の目からは涙がこぼれていました。流れはじめたら止まらない涙。「大変だったかな？つらかったかな？？」。涙の意味がわからず不安に思いつつも、彼女の言葉を待ちます。

2泊3日を終えた彼女から出てきた言葉は、こうでした。

1日目は、周りを見て行動することの難しさを痛感した。子どもたちにいるいろいろなことをわかりやすく伝えるために、もっと語彙力が必要だと思った。「これ見てー！」などと、子どもたちから話しかけられたことが嬉しかった。遊んでいる子どもたち

ちに、どう話しかけていいかわからなかった。

でも2日目は、「質問をたくさんする」とことを心がけ、子どもたちと仲良くなれた。1日目に言われたとおりだと実感した。子どもたちがご飯を幸せそうに食べる姿を見るとき、とても嬉しかった。怖がりな子が、飛び込みに挑戦する姿を見たとき、嬉しかっ

た。挑戦する気持ちや勇氣に感動した。かっこよかったし、勇氣をもらえた。1日目に比べ、みんなの笑顔が増えたことが嬉しかった。

感じたことや悩みが、変わっていったことがよくわかります。涙ながらに感想を述べる彼女を見て、子どもたちだけでなく「彼女も」成長して帰ってきたのだなと思いました。そして参加後の子どもたちからのアンケートには、「高校生リーダーになってみたい！」という言葉がありました。きっと、Hちゃんの不器用ながらも一生懸命頑張る姿が心に残ったのでしょう。

たとえどんなことであっても、「応援する人が頑張ったこと、成長したこと」は心から嬉しいもの。つながり続けることができる、日々誰かを応援することができる。つくづく幸せだなと感じます。教育という仕事を選んでよかった。この夏、夢が叶っただけでなく、私も大きな褒美をもらいました。

花まる学習会 北澤優太



はな まるの教室長を紹介します！

花まるファミリー

FC …スクールFC アノネ音楽教室 アルゴ …アルゴクラブ オンライン …無人島 Flos …フロス GONOU …GONOU 囲碁教室

みんなの教室長も順番に紹介するよ。お楽しみに！



ウエザー

いしず たかし
石須 孝志

東京西 千葉県



カモン

おかもと ゆうき
岡本 祐樹

東京東 アルゴ GONOU 神奈川県



ギョラアシー

おせ ど りよう
尾瀬戸 涼

東京南 千葉県



リアルコン

きたまる としき
北丸 隼己

中京 愛知県



ぷりそ

くさかい みゆ
草替 美柚

東京西 神奈川県



スアウング

ささき まさね
佐々木 真音

東京東 島根県



トミー

とみなが まこ
富永 真子

茨城県



サンバ

はだの たつや
秦野 達也

神奈川県北 アルゴ 神奈川県



アリババ

はるき みつゆき
春木 満之

東京南 島根県



たんしお

ふじえだ しおり
藤枝 詩織

茨城 茨城県



まっちー

まちだ あきひろ
町田 光優

東京南 千葉県



のりぼん

むらた ひろのり
村田 寛典

千葉 千葉県



アンソニー

やなぎさわ はやと
柳澤 隼人

東京東 FC 東京都



アルプス

やまね ひろとも
山根 大知

神奈川県北 鳥取県



まんまん

たかはま まさのぶ
高濱 正伸

〇〇〇 熊本県

リーダーネーム
名前
所属
出身地

サマースクールや雪国スクールで会おうね！

10月の誕生花は ガーベラ



高濱が、花まる教室長をちょっとおちゃめで紹介する新コーナー！自己紹介ならぬ他紹介で、花まるの仲間たちを一年かけてまると紹介しちゃいます。どうぞお楽しみに！